

ロジスティクス環境会議

第2回環境パフォーマンス評価手法検討委員会 議事録

. 日 時：2004年2月26日（木） 15：00～17：00

. 場 所：東京・港区 芝パークホテル 本館3F 牡丹

. 出席者：26名

. 議 案：

- 1) 委員会の活動内容について
- 2) その他

. 開 会

定刻、増井委員長により、本日の委員会をもって、基本的な活動の方向性を確認し、委員長ミーティングにて各委員会との調整を図り、企画運営委員会の確認をもって、4/8（木）に行われる第2回本会議にて、当委員会としての方向性を宣言したい旨の挨拶がなされた、開会が宣された。

. 第1回委員会議事録の確認【資料1】

事務局より、資料1に基づき、第1回委員会の議事経過の報告がなされ、第1回委員会の議事録の確認がされた。

. アンケート集計結果の報告

1) 問題抽出アンケート2次集計結果の概要【資料2-1、2-2】

事務局より、資料2-1、2-2に基づき、1件の回答が複数の委員会の検討課題(テーマ)として取扱われることが望ましい場合も考えられるため、これに対応した2次集計を行った結果の概要が報告された。

2) 問題抽出アンケート2次集計結果と第1回委員会における意見の整理【資料3-1】

事務局より、資料3-1に基づき、問題抽出アンケート2次集計結果と第1回委員会の意見を整理した結果の概要が報告された。

主な回答結果として、活動のニーズとしては、自社のロジスティクス、物流の環境パフォーマンスを算定し、評価したいことが改めて確認された。また、課題としては、指標の統一化、算定方法の統一化に対する回答が多かったことが報告された。

3) 問題抽出アンケート2次集計結果と第1回委員会における論点の整理【資料3-2】

事務局より、資料3-2に基づき、問題抽出アンケート2次集計結果と第1回委員会の論点を整理した結果、アンケート、第1回委員会の論点が環境パフォーマンスの算定方法や評価指標に集中しており、当委員会では、「方針」にあたる環境パフォーマンスの測定や評価する範囲等についての議論を最初に行いたい旨の説明が行われた。

・議事の経過

1. 議 事

増井委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) 委員会の活動内容について

事務局より、資料4に基づき、委員会の議題（合意形成）したい項目（案）について説明が行われた後、増井委員長より、これまでの意見として、算定方法等に関わる意見を多くいただいているが、当委員会のスタンスとしては、方針（範囲、枠組み等の設計）に関わる議論を中心として、方策（指標や算定方法）については、経済産業省の委託として JILS 総合研究所がおこなっている「環境調和型ロジスティクス実態調査（略称 L E M S）」に委ねたい。また、当委員会の方針としては、範囲は製品の企画・設計段階から再資源化に至るロジスティクス全般として、初期段階の活動としては、物流に軸を置きたい。当委員会活動の成果を広く公開し、啓発、普及することも重要なため、方針の中には、提言を行うことにも入れたい旨の依頼がなされた後、以下のような意見交換が行われた。

- 【委 員】当委員会の取組みとして、どのような活動を行うかを定めるためにも、アンケート調査をしても良いのではないか。
- 【委 員】活動を決める前に、委員会としてのスタンス（方針）を決める必要があるのではないか。
- 【委 員】環境パフォーマンスの評価対象として、輸送や包装など、どの部分にフォーカスを当てるのか決める必要があるのではないか。
- 【委 員】ステークホルダーとの関係から優先順位（重み付け）も必要ではないか。
- 【事務局】「環境調和型ロジスティクス実態調査（略称 L E M S）」では、輸送と包装に絞り込んでいる。
- 【委 員】算定するためのデータ項目について議論する必要があるのではないか。
- 【委 員】データ項目については、業種によって異なるため、当委員会の各メンバー企業でどのようなデータを取っているのか、アンケート調査し、業種別にまとめても良いのではないか。参考資料『ステークホルダー重視による環境レポートガイドライン 2001』P31にも業種別に重点記載事項有り。
- 【委 員】取引先からNO_xやSO_x等に関するデータの提示が求められている。取引先等に提示すべきデータに関するガイドラインも必要なのではないか。
- 【委 員】どのようなデータが必要なのか、アンケートで調査しても良いのではないか。
- 【委 員】現段階では、物流活動の指標に落とすしかないのではないか。また、物流活動の指標にするにしても、当委員会としての合意形成が必要であり、議論するための関連性を示す図が必要ではないか。
- 【委 員】あるべき姿を描くことも必要ではないか。そのうえで、現段階で取れるデータで算定し、評価するしかないのではないか。
- 【委 員】委員会の中、「L E M S」ということがよく言われるが、よく分からないメンバーも多いのではないか。
- 【事務局】第1回委員会で紹介している「環境調和型ロジスティクス実態調査」のことを指しているが、今後ご理解していただけるよう説明に注意したい。
- 【委 員】先行している「L E M S」で分かっている効果や問題点を当委員会に反映させる必要があるのではないか。
- 【委 員】京都議定書の枠組みを意識しながら、国際的な動向にも連動させる必要があるのではないか。

以上のような意見交換が行われた後、増井委員長より、以下のような確認がなされた。

- ・資料4の活動方針等については、正副委員長と事務局で修正案を作成し、各メンバーにメールで確認する。

2) その他

今後のスケジュールについて

第3回委員会は、次のとおり開催することが確認された。

日時：2004年4月23日(金) 15:00～17:00

会場：芝パークホテル

2. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、増井委員長は閉会を宣した。

以 上